

# 2022年度安全衛生推進計画重点方針

## 「はさまれ・まきこまれ要因の低減」実施要領

一般社団法人 日本伸銅協会 安全委員会

### 1. 主 旨

一般社団法人 日本伸銅協会 安全委員会では、伸銅業における労働災害の撲滅を計画的に推進するため、1966年（昭和41年）以来、各年毎に労働災害防止計画を策定し各種の運動を展開してまいりました。こうした活動を基に、会員各社の各事業所ではそれぞれの実情に見合った対策を講じて頂いております。

その結果として、伸銅業の休業以上の災害件数は、着実な減少傾向を示し、2009年度（平成21年度）には10件と、休業災害以上の災害件数は過去の最良記録を更新致しました。しかし、その後2010年度（平成22年度）以降はまた、28件、27件、25件、27件と4年連続で悪化を示しました。2014年度（平成26年度）については一旦15件に減少するも、翌2015年度（平成27年度）以降は、20件、17件、15件、17件推移、2020年度は10件減少に向かったものの、2021年度前半までですでに16件となり、依然として巻きこまれ、はさまれ を中心に、災害が発生しております。

今後、製造業においては益々、全般的に安全に対する取り組みが何より重要であることを認識しなければなりません。

そのような中、2017年（平成29年）4月には厚生労働省、経済産業省と製造業の主要団体が集まり「製造業安全対策官民協議会」が発足し、業界の垣根を超えた活動がスタートしており、日本伸銅協会もこの活動に参画しております

こうした現況を踏まえ、安全委員会では、2014年度（平成26年度）より伸銅業の災害撲滅運動への取り組みとして、今一度安全活動の初心に立ち返る気持ちを明確に表した安全重点方針を「危険予知徹底運動」として展開してきておりましたが、更に深堀をして取り組むことが重要であるとの認識のもと、挟まれ巻き込まれ災害が多いことから、2020年度（令和2年度）より重点方針を「はさまれ・まきこまれ要因の低減」として展開致しております。

災害発生件数は中長期の幅で見れば間違いなく減少傾向にありますが、挟まれ巻き込まれ要因による災害が多いのも実状であります。従って、この「挟まれ巻き込まれ災害」をなくすためには安全管理活動を充実・強化し、挟まれ巻き込まれ要因を排除することがますます重要となります。

そのため、2020年度より安全重点方針として「はさまれ・まきこまれ要因の低減」を取上げるとともに、「危険源の排除」を最重点推進実施事項として取り上げ、設備や作業及び安全対策を再確認し、危険源の排除を徹底実施することと致しました。

伸銅協会各事業所におかれましては、何卒「はさまれ・まきこまれ要因の低減」の主旨をご理解頂き、2022年度の運動を活発に展開し、無災害達成に向けた活動への積極的な参加をお願い申し上げます。

## 2. スローガン

『 手を出す前に一呼吸 指差し呼称で摘み取る危険の芽 』

## 3. 運動期間 2022年1月1日～12月31日

## 4. 協賛

東京・神奈川地区伸銅業安全衛生研究会  
北関東・長野地区伸銅業安全衛生研究会  
埼玉地区伸銅業安全衛生研究会  
大阪・尼崎地区伸銅業安全衛生研究会  
京都地区伸銅業安全衛生研究会  
東海地区伸銅業安全衛生研究会  
富山・関門地区伸銅業安全衛生研究会

## 5. 実施事項

- (1) 安全委員会は、同運動のポスターを作成し年間スローガンとして、各事業所へ配布する。
- (2) 安全委員会は、安全標語の募集を行い、優秀作品を選び表彰する。
- (3) 安全委員会は、「はさまれ・まきこまれ要因の低減」を目的とした、研修会・見学会を開催する。
- (4) 各地区研究会では、「はさまれ・まきこまれ要因の低減」を目的とした、研修会・交流会を開催し、同運動を推進する。
- (5) 各事業所では、この運動を実施する主旨を全職場に徹底し、災害防止対策を実施する。

以上